

CXA アムズ(株)

OEM: なし

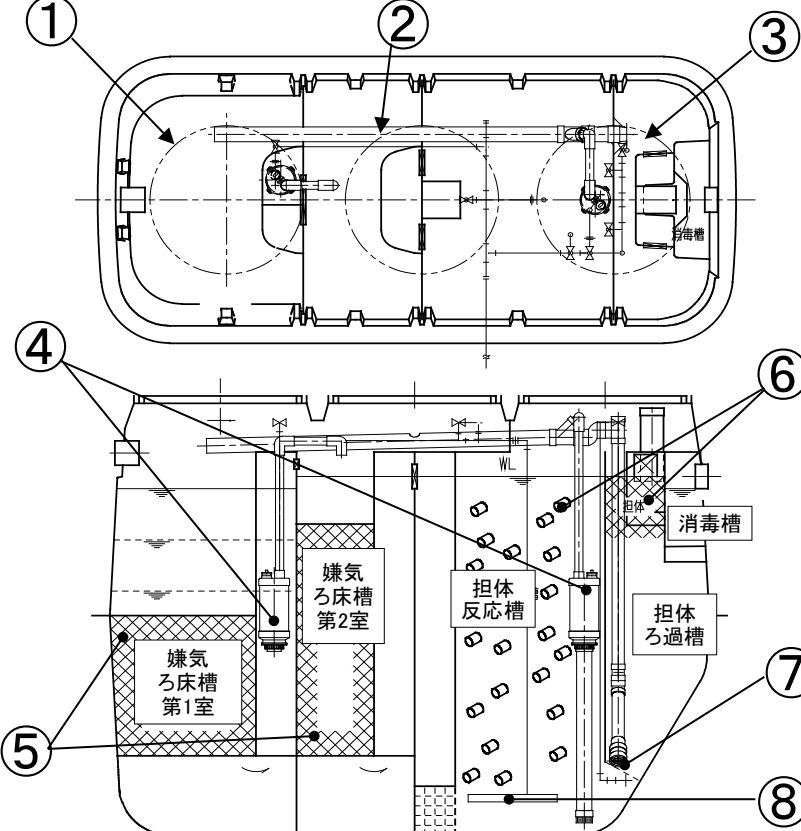
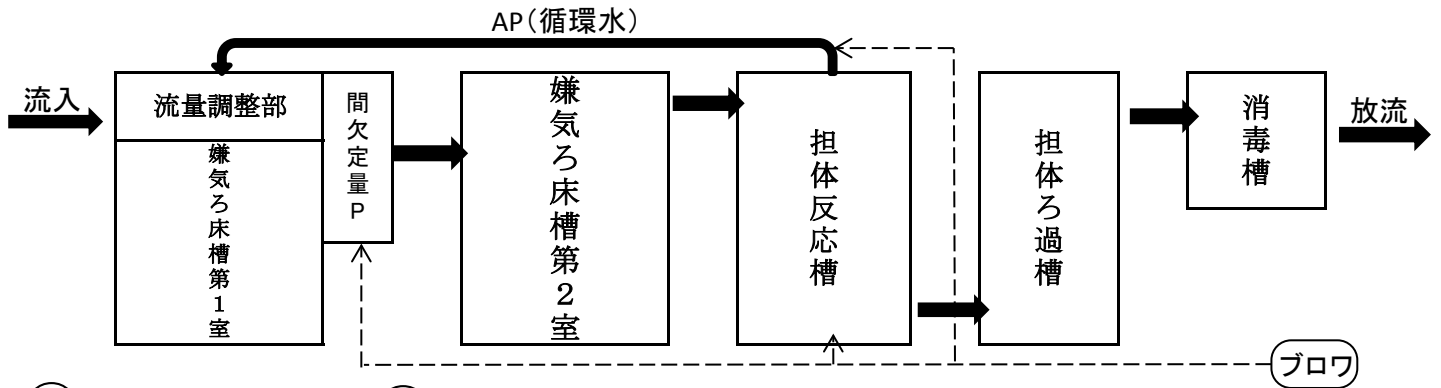
共同開発: なし

処理方式: 流量調整型嫌気ろ床担体流動浮上ろ過方式
5・7・10人槽

窒素除去型

全浄協登録値

BOD	SS	T-N
20mg/L以下	—	20mg/L以下
性能評定または性能評価値		
BOD	SS	T-N
20mg/L以下	10mg/L以下	10mg/L以下



- ①嫌気ろ床槽第1室
- ②嫌気ろ床槽第2室
- ③担体ろ過槽
- ④間欠定量ポンプ
- ⑤嫌気ろ床槽ろ材
- ⑥担体反応槽担体/担体ろ過槽担体
- ⑦担体流出防止網/逆洗管
- ⑧散気管

有効容量 (m ³)		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	嫌気ろ床槽 第1室(L. W. L)	0.678	1.015	1.425
	嫌気ろ床槽 第2室	0.675	0.990	1.450
	担体反応槽	1.060	1.475	2.102
	担体ろ過槽	0.377	0.513	0.764
	消毒槽		0.022	
	合計	3.098	4.447	6.458

槽底部からろ材受け面までの距離 (mm)	第1室	325.000	400.000
	第2室		

流量調整機能	間欠定量ポンプ(流調用)バルブ開度						循環装置	間欠定量ポンプ(循環用)バルブ開度						散気バルブ	逆洗バルブ	空気逃がしバルブ
	有	5人	5	7人	7	10人		10	有	5人	5	7人	7			

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻		逆洗回数 (回)	逆洗周期
5	80	-	-	-	-	-	-
7	110	-					
10	150	-					

[人槽に対する流量調整水量・循環水量の設定範囲]

人槽(人)		5	7	10
流量調整装置間欠定量ポンプ	移送水量(ℓ/分)	2.1~5.5	2.9~7.8	4.2~11.1
循環装置間欠定量ポンプ	移送水量(ℓ/分)	2.1~3.5	2.9~4.9	4.2~7.0

特徴

嫌気ろ床槽第1室には間欠定量ポンプが設置しており、流量調整部にピーク時の流入水が一時的に貯留され、ピークを緩和できる。槽内には骨格様球状ろ材が充填されている。第2室は第1室同様、排水に含まれる固形物や浮遊物を貯留し、また、汚水の有機汚濁成分を嫌気性微生物により分解する。

担体反応槽槽内に充填された中空円筒状担体(φ14×L15mm)が流動する。槽内水が下向きに流れる過程で、BOD除去と硝化反応が進行する。槽底部に循環装置が設置しており、嫌気ろ床槽第1室へ循環される。

担体ろ過槽槽内に担体反応槽と同一の担体が充填されており、水面に浮上している。槽内水が上向きに流れる過程でSSが捕捉される。ろ過後の流出水は、消毒槽両側の水面付近に設けられた移流口を介して消毒槽へ移流する。担体反応槽からの移流部に2本の逆洗管が設置されている。

消毒槽担体ろ過槽からの移流口、ならびに放流口には担体流出を防止するため、ネット等が設置されている。

作業時のポイント

保守点検

① 定量移送装置(流量調整・循環)のバルブ目盛は必ず同じにしてください。吐出開始から吐出終了までの1サイクルの時間と1回あたりの吐出水量を実測し、1分間あたりの移送水量を確認してください。

② 嫌気ろ床槽第2室の流出部と担体ろ過槽の流出部に設けてある担体移流防止網が目詰まりをした場合、水位上昇の原因となりますので保守点検時に洗浄を行ってください。

③ 担体ろ過槽の逆洗を必ず行ってください。はじめに流量調整用バルブを閉じエアリフトポンプ用バルブを開いて担体ろ過槽の水位を5cm程度下げます。次に、逆洗用バルブを開き他のバルブを全て閉じて担体ろ過槽をばっ気攪拌してください。最後に各バルブを標準設定に戻すか、状況に応じたバルブ設定を行ってください。

清掃

① 嫌気ろ床槽第1室の汚泥・スカム等は、全量引き抜いてください。

② 第2室以降は適正量としてください。